



平成25年3月期第2四半期 決算説明会

平成24年 11月 13日



株式会社 東邦システムサイエンス

証券コード: 4333 東証二部

・会社概要

- I. 平成25年3月期第2四半期業績
- II. 平成25年3月期業績見込
- III. 平成25年3月期下期経営方針



会社概要

設立	1971年(昭和46年)6月
上場市場	東証二部(2007年3月12日上場)
資本金	5億2,658万円
事業内容	1.ソフトウェア開発 96.8% 2.情報システムサービス等 3.2%
特徴	金融コア型経営(金融関連 87.5%)
従業員数	558名(平成24年9月末日現在)

I . 平成25年3月期第2四半期業績



日本経済

- 第2四半期累計期間における日本経済は、震災からの復興需要を背景として緩やかな回復傾向が見られた。

情報サービス業界の状況

- 経済産業省の特定サービス産業動態統計によれば、情報サービス業界は、景気の回復傾向に支えられ、当社が主力とする受注ソフトウェア売上高は平成24年4月～8月ベースで+2.6%の伸展となった。

平成25年3月期第2四半期業績(予想比)

(単位:百万円)

	業績予想	平成25年 3月期第2Q	増減率 %
売上高	4,190	4,801	14.6
営業利益	295	319	8.2
経常利益	298	323	8.5
経常利益率	7.1%	6.7%	—
四半期純利益	180	186	3.6
四半期純利益率	4.3%	3.9%	—

平成25年3月期第2四半期業績(前年同期比)

(単位:百万円)

	平成24年 3月期第2Q	平成25年 3月期第2Q	増減率 %
売上高	4,124	4,801	16.4
営業利益	171	319	86.1
経常利益	175	323	84.6
四半期純利益	108	186	72.2
総資産	7,238	7,053	△2.5
純資産	3,852	3,914	1.6

* 総資産・純資産は平成24年3月期と比較

ソフトウェア開発売上高40億46百万円(前年同期比+7億40百万円、22.4%増)

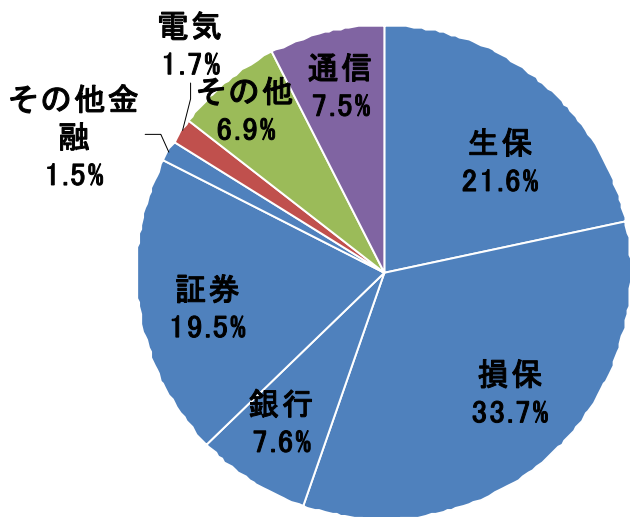
- 損保 18億34百万円(前年同期比+4億44百万円、32.0%増)
- 証券 10億59百万円(前年同期比+2億69百万円、34.2%増)
- 生保 7億49百万円(前年同期比△3百万円、0.4%減)
- 銀行 3億68百万円(前年同期比+56百万円、18.2%増)



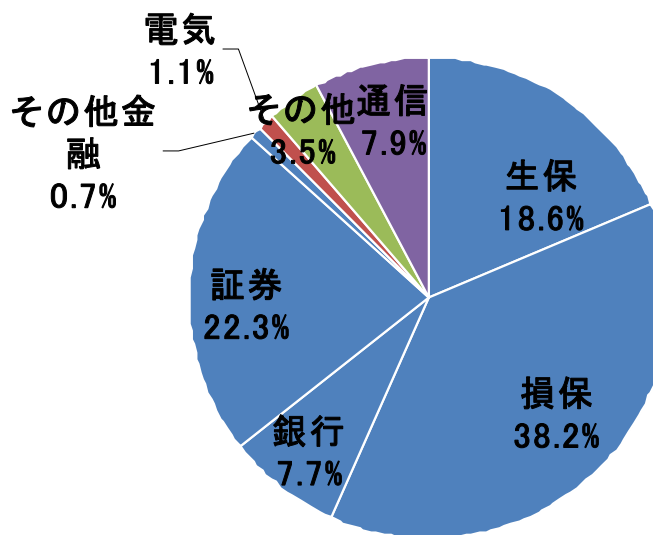
大手損保の統合案件等により損保系業務拡大
大手証券の大型共同化案件により証券系業務拡大

業種別売上高 (%)

<エンドユーザベース>

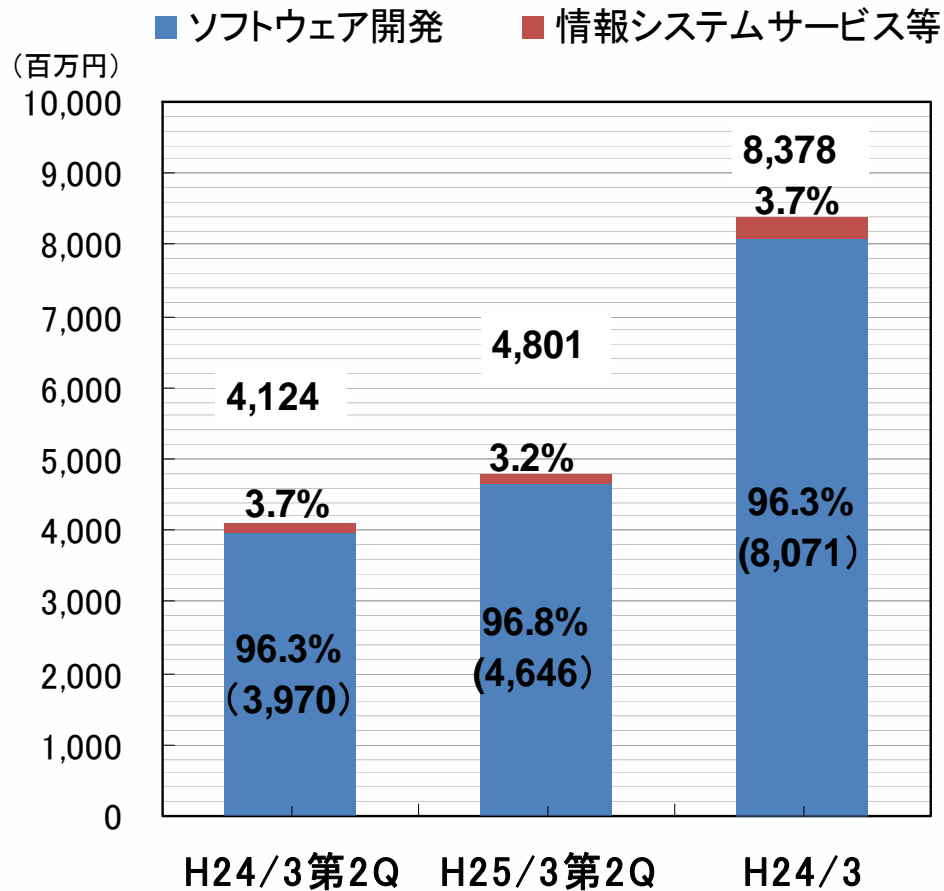


金融関連: 83.9%
<平成24年3月期第2Q>



金融関連: 87.5%
<平成25年3月期第2Q>

セグメント別売上高



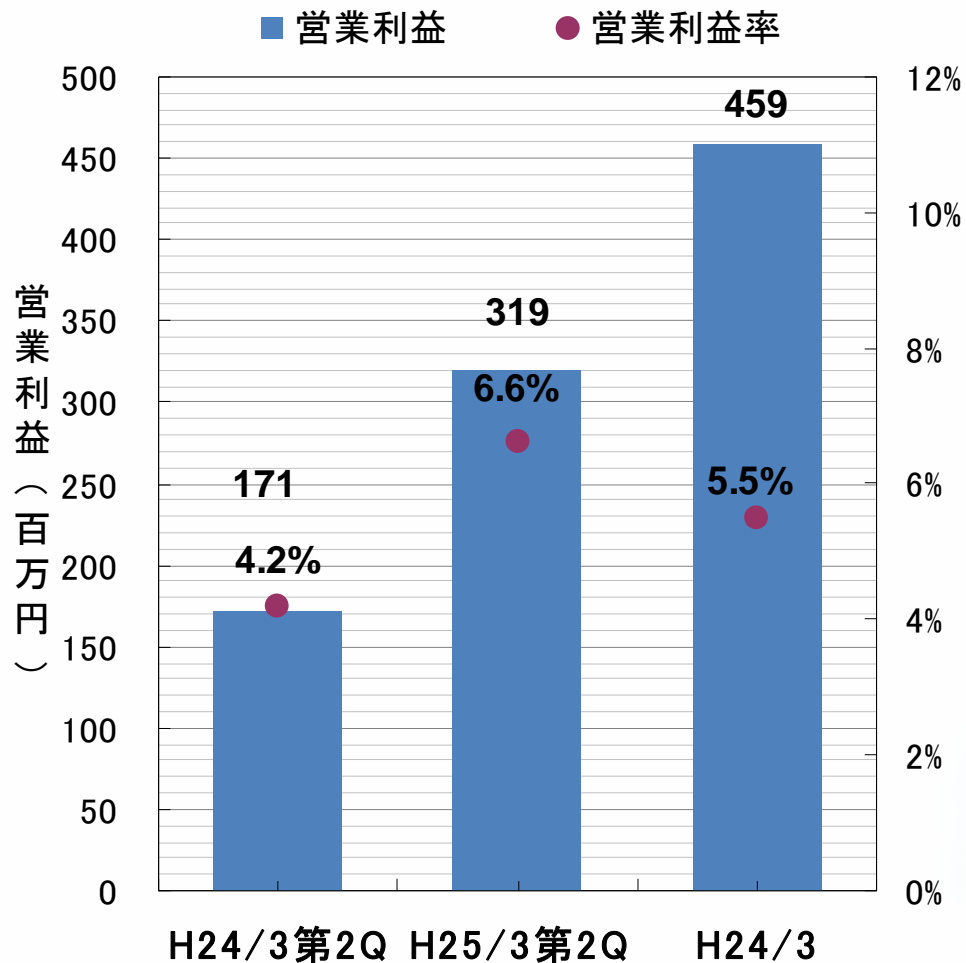
当期の主な売上先

(売上高上位3社)

1. (株)野村総合研究所
2,195百万円(45.7%)
2. (株)エヌ・ティ・ティ・データ
299百万円(6.2%)
3. あいおいニッセイ同和損害保険(株)
243百万円(5.1%)

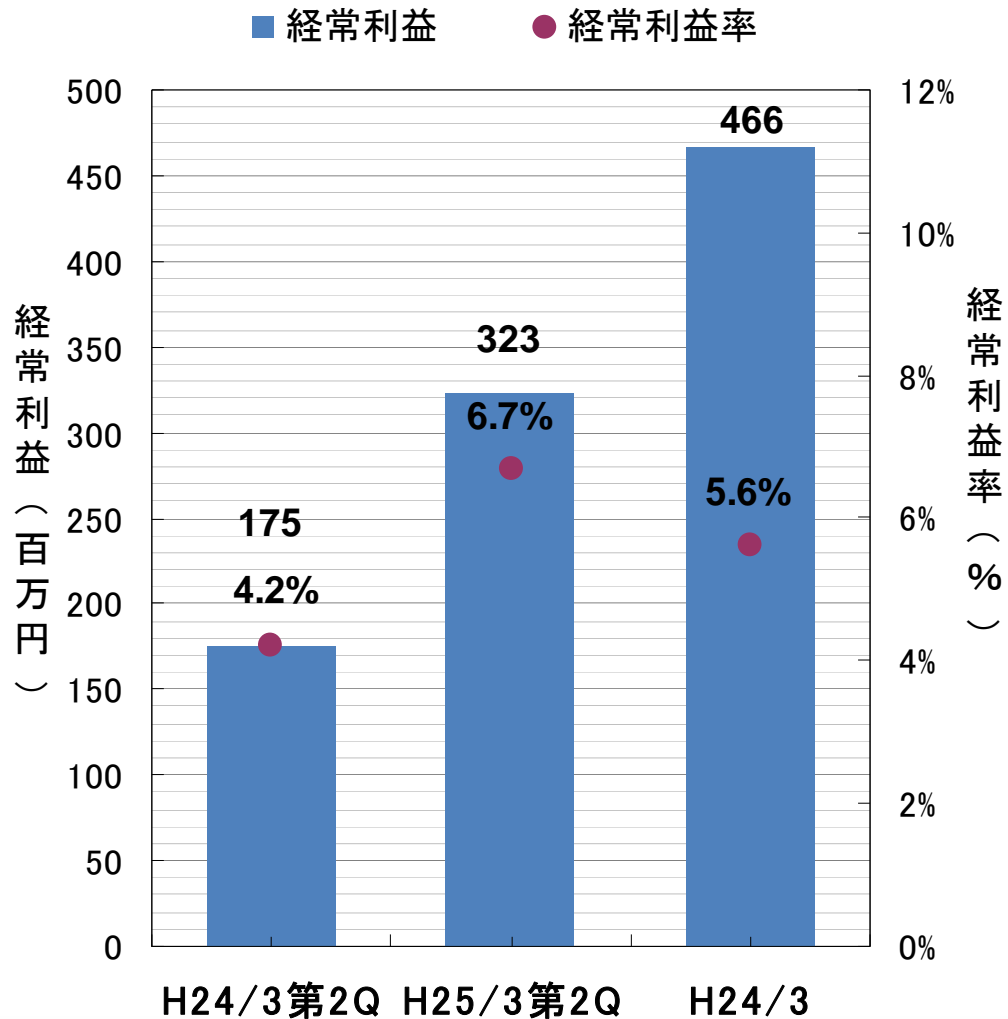
(%: 売上高割合)

営業利益・営業利益率



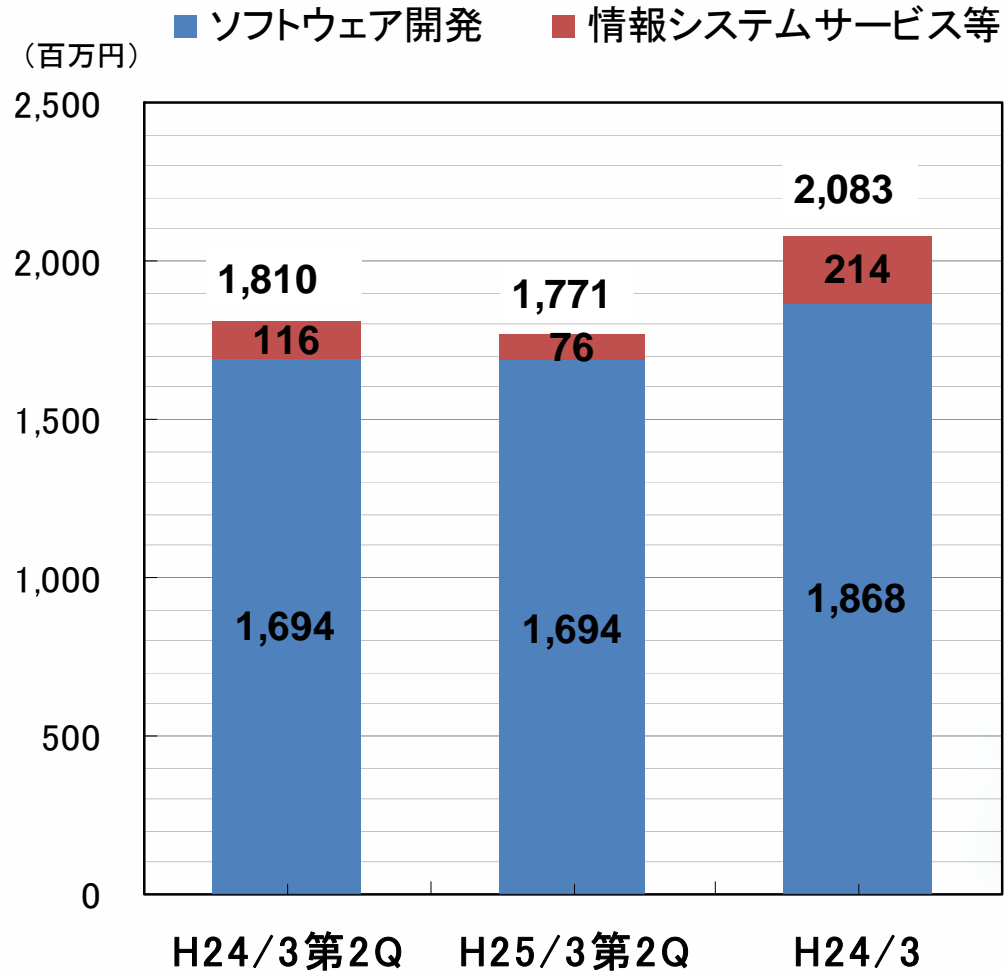
- 営業利益率増加 +2.4%
(内訳)
- 売上総利益率の増加
15.9% ⇒ 17.6% (+1.7%)
- 売上高の増加による
販管費率の改善
11.7% ⇒ 11.0% (+0.7%)

経常利益・経常利益率



■ 営業利益の増加による

受注残高



- 当社の受注環境は堅調に推移
- 今後の受注残高の積み上げに注力

II. 平成25年3月期業績見込



日本経済

- 先行きについては、当面は弱めの動きが続くと見込まれる。景気が回復に向うことが期待されるが、世界景気の更なる下振れや金融資本市場の変動等が、景気を下押しするリスクとなっている。

当社主力市場 — 金融業界

- 情報化投資は慎重（日銀短観2012年10月1日）



「金融機関の2012年度ソフトウェア投資額は全体で +0.5%」

- 保険業は対前年比 $\Delta 8.0\%$ となっているが、前年度に大幅な伸展があったことから、投資の絶対額は十分な水準にあると考えられる。

生・損保業界

- 大手損保会社の経営統合によるシステム開発需要
- 中堅生保の経営統合後のシステム開発需要

証券業界

- 大手証券会社のシステム改修による需要
- 共同利用型オンラインシステムの開発需要

銀行業界

- メガバンクの経営統合によるシステム開発需要、大手信託銀行の経営統合によるシステム開発需要

カード・クレジット業界

- 全体としてシステム開発需要が復調

平成25年3月期業績予想

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	一株当たり 当期純利益
通 期	8,800百万円	630百万円	635百万円	390百万円	57.46円
(前期比 増減率)	5.0%	37.1%	36.2%	137.0%	137.6%

Ⅲ. 平成25年3月期下期経営方針





自立したSI'erを目指して！

1. マーケティング
2. 人材の育成・確保
3. 社内運営管理
4. M&A・業務提携
5. 企業統治・内部統制

1. マーケティング(1)

金融分野を中核とした市場競争力の一層の強化

- 斬新的な生命保険業務パッケージで韓国LGCNS社と協業
 - ・ LGCNS社が開発した生命保険業務パッケージ「Insu Tower」の日本での営業展開を開始
対象先として外資系生保および中堅生保を中心に提案営業中
- コンサルティング分野を強化し、上流工程から開発、保守まで一貫したソリューションを提供することで、金融SI'erとしての地位を確立する

通信系業務の拡大と新たな事業分野の確立

- 通信系業務の拡大と、当社のコアビジネスを補完する、新たな事業分野の確立
 - ・ 個別対応から組織(チーム体制での)請負による基盤系ビジネスのスケール拡大
 - ・ AMO(Application Management Outsourcing)による保守系業務の一貫ソリューションを確立し、ストックビジネス化を指向する

1. マーケティング(2)

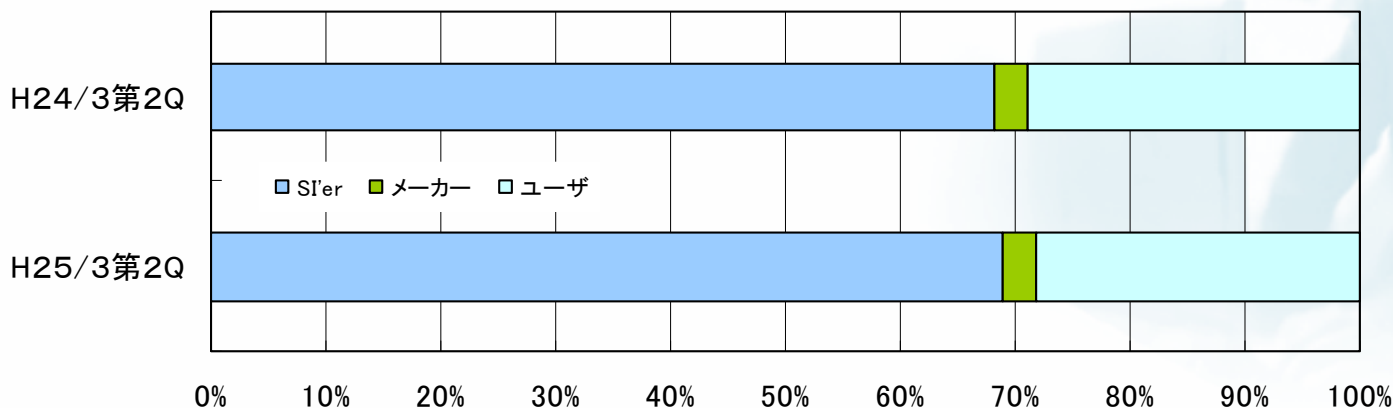
SI'er、メーカー、ユーザーの特性を考慮した継続的・安定的取引

- 受注におけるリスクを分散し、継続的・安定的な業績をあげるためにSI'er、メーカー、ユーザーの特性を考慮した取引を行う
 - ・ 金融系大型SIにともなうSI'er取引が進展し、売上構成比が上昇
 - ・ メーカー系はクラウドビジネス等に特化し、大型SIの引合い減少が継続。
 - ・ エンドユーザーからの受注は堅実に増加しており、今後も積極的な営業活動を展開

受注先別の売上高構成比(ソフトウェア開発)

単位: 百万円

期	SI'er		メーカー		ユーザー		合計
	売上高	構成比	売上高	構成比	売上高	構成比	
H24/3第2Q	2,708	68.2%	112	2.8%	1,149	28.9%	3,970
H25/3第2Q	3,281	70.6%	136	2.9%	1,228	26.4%	4,646
増減	+573	+2.4%	+24	+0.1%	+79	-2.5%	+676

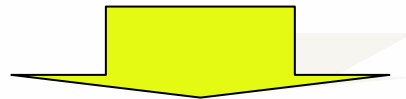


2. 人材の育成・確保

「業務知識」と「IT技術」の両面を備えた
技術者の育成に注力

プロジェクトマネージャーの組織的養成

新卒者を中心とした優秀人材の確保



業界屈指の技術者集団を目指す

3. 社内運営管理(1)

仕損リスクの回避、プロジェクトマネジメントの強化・徹底

- 請負一括型の開発案件では、商談の初期段階からリスクの把握、分析・評価を行うなどプロジェクト全体の「見える化」を推進し、問題点を「可視化」することで、仕損の撲滅に向けて全社的取り組みを行う
- 今期新設したプロジェクト審査室による、仕損防止、プロジェクト監査

パートナー会社との関係強化と要員確保の柔軟性の実現

- 長期継続的な要員確保のため、組織的・技術的対応力を持った協力会社との最適なパートナーシップを実現する
- 開発費用の削減、一時的な要員確保については、中国を中心としたオフショア会社の活用を図る
- 今期新設したパートナー推進部を第二のプロフィットセンターに

3. 社内運営管理(2)

顧客RM(リレーションシップ・マネジメント)の向上

- 継続的に顧客とのリレーションを強化し、顧客満足度向上を目指してCR推進室を設置
- 重点顧客にはアカウントマネージャを配置し、深耕開拓をすすめる

コンプライアンス、セキュリティ対応の徹底

- TSS企業行動基準に基づくコンプライアンス(法令遵守)を徹底
- 個人情報保護法対応として取得したプライバシーマークの適切な運用、セキュリティ対策の強化による情報管理の徹底

経営情報の迅速・正確な収集によるきめ細かな経営管理

- 年度始より社内システムを刷新し、原価管理システム、会計システム、人事・給与システムの一体運用を開始⇒タイムリーに正確で必要な資料の提供が可能

4. M&A・業務提携

- 経営規模目標としての売上高100億円を目指し、さらなる経営基盤の強化を図る
- 今後も当社事業と相乗効果が期待出来る分野のM&Aならびに資本・業務提携、協業について継続して検討

重点市場： 金融関連市場（保険・証券・銀行等）
通信関連市場
その他既存事業と関連する市場

重点技術： クラウドに関する技術、タブレット端末ソリューション
ネットワーク、データベース

5. 企業統治・内部統制

(1) コーポレートガバナンスの実践

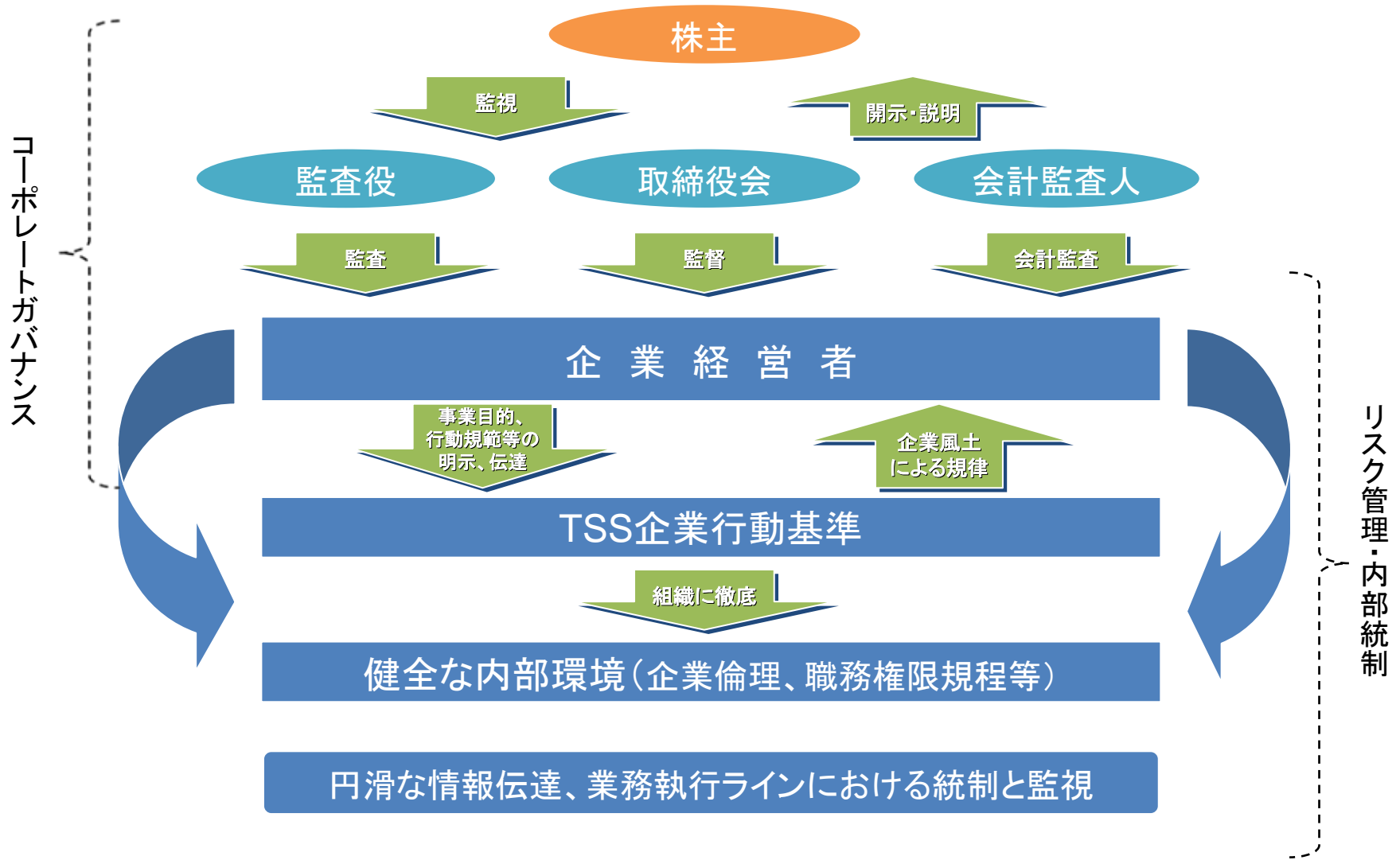
事業態様・事業規模に即したコーポレートガバナンスの実践



中長期的な安定成長、企業価値の増大

(2) 内部統制

TSS企業行動基準を定め、コーポレートガバナンス、リスク管理、内部統制の経営プロセスを整備⇒次頁会社統制概念図



(3) 株主還元の方針

- 会社競争力の向上
- 企業価値の最大化



株主各位への利益還元を図る

<利益配分>

- 24年3月期は普通配当年17円



- 25年3月期も普通配当年17円を予定

- 株主各位への長期にわたる安定的な配当
- 今後の事業拡大に向けた内部資金の確保



当期の財政状況、利益水準、配当性向



**最適なシステムソリューションを
提供する高信頼度企業！**



株式会社 東邦システムサイエンス

* 本資料についてのご注意

本資料は、平成25年3月期第2四半期の業績および今後の業績見通し、経営戦略に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的としたものではありません。

本資料に記載されている株式会社東邦システムサイエンスの将来予想に関する事項は、現時点における情報に基づき判断したものであり、予想に内在する不確定要因や今後の事業運営における状況変化等により変動することがあります。

なお、いかなる目的であれ、本資料を無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。